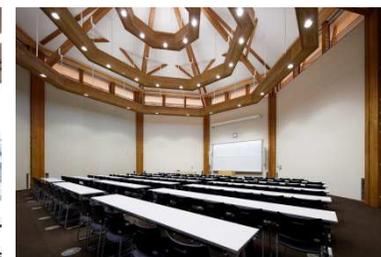


☆県産材を利用した木のぬくもりに包まれる校舎☆(山梨県)

健康科学大学 看護学部1号館(山梨県都留市)



□ 概要

1 建築概要

- ・延床面積 2,456 m² ・構造 木造、一部鉄筋コンクリート造 地上2階 地下1階
- ・木材利用量 760 m³ (県産材 660 m³)
- ・事業費 1,030百万円 (補助金 森林整備加速化・林業再生交付金 313百万円)

2 特徴

1号館校舎は、学生ホール・看護実習室を配置した1号棟と、1号棟の屋根を伸ばした多目的に利用が出来るデッキテラスにより八角形の講義棟を繋ぐ木造建築物です。

構造材は、県産唐松を加工した大断面集成材・LVL材を使用、燃えしろ設計を行い柱・梁・筋カイの一部をあらわしとすることで構造材を見せる意匠としています。

○大断面材を使用した在来工法○

1号棟2階は、看護の実習授業に妨げにならないよう柱の無い広い空間を確保する為、大断面集成材の梁・LVL材を使った柱による在来工法を採用、柱は最大12mの跨度で配置しあらわしとして意匠としている。

○八角形をした講義棟○

約120名の収容を目的とした大講義室は、2本の登り梁を組み合わせたフレームを、中心から放射線状に配置し意匠となる八角形を強調している。
2本の登り梁のフレームと共に天井高さ8.1mから中心部の10.4mまで緩やかな斜天井とし大空間を確保している。

○構造材を見せる意匠○

構造材は、燃えしろ設計による準耐火構造。
各室で柱・筋カいをあらわしで使用しカーテンウォール越しに外部からも木構造が視認できる。
外部には、耐候性塗料を施し、また軒を深くすることで構造材を露出し見せる意匠としている。



大断面材を使用した架構



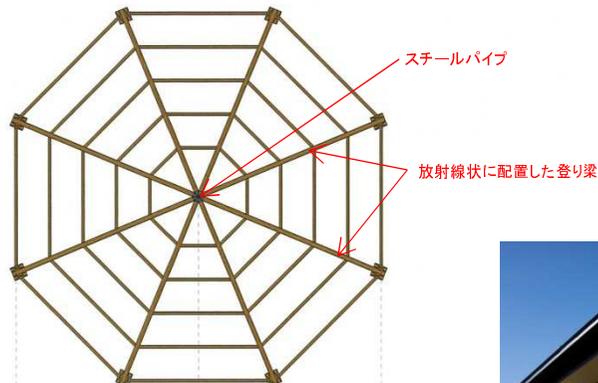
広い区間を確保した実習室(基礎・成人看護実習室)



放射線状に配置した登り梁の中心部



2本の登り梁を露出した架構



講義棟 登り梁伏せ図

2本の登り梁を組み合わせたフレーム
中心より放射線状に配置

耐候性塗料を施し、
また軒を深くすることで
露出させた柱・梁



軒を深くし露出した柱・梁



カーテンウォール越しに柱・筋カいが視認できる



柱・筋カいを露出した室内(ラウンジ・学生ホール)

